

S E デ ー タ ・ セ ン タ ー 報 告

広 沢 晔 夫 ・ 山 脇 菊 夫 ・ 佐 伯 信 吾

1. 飛しょう実験, 地上実験記録

1961 年 10 月実験

実験期間: 10 月 18 日~10 月 31 日

実験場所: 東京大学秋田実験場

実験ロケット: K-8-8 (ID-7), FN-150, K-8-9 (ID-9, AG-3)

実験班の構成:

K-8-8 実験主任 齊藤・副主任 玉木

所内 45 名 (生研・通研・電波研) 所外 21 名 (プリンス自動車・日本電気・明星電気・横河電機・松下通信・ユシヤ製作所) ほかにアルバイト学生 25 名

FN-150 実験主任 玉木

所内 33 名 (生研), 所外 11 名 (プリンス自動車明星電気) ほかにアルバイト学生 25 名

K-8-9 実験主任 玉木・副主任 齊藤

所内 51 名 (生研・電波研・東京天文台) 所外 18 名 (プリンス自動車・日本電気・明星電気・横河電機・久保田気象測器) ほかにアルバイト学生 25 名

10 月 18 日: 実験器材荷物の開梱点検および整理

10 月 19 日: 実験場内の準備作業, 10 時警備打合せ (秋田), 13 時記者会見 (秋田), 15 時道川協議会, 午後 K-8-8, FN-150 ロケット実験場到着.

10 月 20 日: K-8-8 ロケットの開梱点検, 13 時 30 分 K-8-8 の全員打合せ. 主任より観測項目の説明, 各班の準備作業状況の報告, リハーサルについての打合せ等を行なう.

10 月 21 日: 10 時より 13 時 40 分まで K-8-8 のリハーサルを行なう. 報道班および来賓の見学があった. リハーサル終了後タイムスケジュール検討のためチーフ会議を行なう. その他レーダのアンテナテスト, 計測器の衝撃テスト, 開頭テスト等を行なう.

10 月 22 日: 午前テレメータと各計測器のかみ合せ試験, 午後チーフ会議を行ない作業の進行状況をチェックし, 明 23 日飛しょう日の発射時間について打合せを行なう. その他テレメータのアンテナテスト, レーダトランスポンダの気密テスト等を行なう.

10 月 23 日: 実験場到着し, すぐにチーフ会議を開き天候が悪いので飛しょう時間について討議したが 11 時に新しい天気予報が入るのでそれまで待期し, 11 時に再びチーフ会議を開く. 天候が思わしくなく飛しょうするとしても時間が遅くなり ID 観測班の希望もあり飛しょうは 24 日に延期する事に決定した. 午後 K-8-9 ロケット実験場に到着.

10 月 24 日: K-8-8 飛しょう. 12 時 59 分 上下角

81°, 地上風北 4 m/s, 気温 10.5°C, 気圧 1032 mb, 天候くもり.

10 月 25 日: 午前 FN-150 の全員打合せ. 各班の準備状況の報告, リハーサルの打合せを行なう. 13 時より 14 時までリハーサルを行ないその後チーフ会議を開きタイムスケジュールの打合せを行なった.

10 月 26 日: FN-150 飛しょう. 11 時 43 分 上下角 45°, 地上風南東 9 m/s, 気温 13°C, 気圧 1025 mb, 天候晴.

10 月 27 日: 午前 K-8-9 の開頭テスト, 13 時 K-8-9 の全員打合せ. 各班の準備状況と予定について報告, リハーサルについて打合せを行なう.

午後 AG の衝撃テスト, 突出テストを行なう. 一部の残業し夜間実験に備えて夜間照明の準備を行なった.

10 月 28 日: 夜間実験のリハーサルのため午後出勤, 観測器とテレメータのかみ合せを行なう. 16 時よりリハーサルに入り終了後チーフ会議を開きタイムスケジュールについて打合せを行なった.

10 月 29 日: 午後出勤, チーフ会議を行ない天候について検討し風速が大きく, よまわる見通しがないので飛しょうは明日に延期することに決定した.

10 月 30 日: K-8-9 飛しょう. 20 時 13 分上下角 80°, 地上風北東 4 m/s, 気温 9°C, 気圧 1030 mb, 天候晴.

10 月 31 日: 実験器材の撤収作業

1961 年 12 月実験

実験期間: 12 月 16 日~12 月 26 日

実験場所: 東京大学秋田実験場

実験ロケット: RT-150, K-9 L-2 (ID-9)

実験班の構成:

RT-150 実験主任 森・副主任 野村

所内 41 名 (生研), 所外 27 名 (プリンス自動車・明星電気・三菱電機) ほかにアルバイト学生 31 名

K-9 L-2 実験主任 森・副主任 野村

所内 52 名 (生研・電波研), 所外 27 名 (プリンス自動車・日本電気・明星電気・三菱電機・横河電機・松下通信・ユシヤ製作所)

12 月 16 日: 11 時警備打合せ (秋田), 13 時記者会見 (秋田), 15 時道川協議会

12 月 17 日: RT-150-1 全員打合せ. 主任より実験計画概要の説明, 各班より準備状況およびスケジュールの報告が行なわれた.

12 月 18 日: 午前 RT-75 のチーフ会議, 発射方向

および発射角度について打合せを行なった。10時52分、12時27分、13時28分の3回にわたって、レーダテスト用のRT-75型の飛しょうテストを行なった。実験後RT-150のスケジュールについてチーフ会議を行なった。

12月19日：RT-150-1飛しょうのタイムスケジュールに入ったが、途中降雨がはげしく中止となる。午後、今後の予定についてチーフ会議を行なう。

12月20日：RT-150-1飛しょう。15時05分上下角48°、地上風北西10m/s、気温4°C、気圧1009mb、天候くもり。飛しょう後K-9L-2関係のチーフ会議を行ない準備状況をチェックした。

12月21日：午前、K-9L-2の全員打合せ。リハーサルの打合せ、各班の準備状況の報告等が行なわれた。打合せ後開頭テストを行なった。異常なく開頭した。午後、K-9L-2のリハーサルを行なった。

12月22日：午前、レーダの衝撃テスト、アンテナテストを行なう。午後チーフ会議を行ない天気予報およびスケジュールの検討を行なう。

12月23日：K-9L-2の飛しょう準備を行なったが、天候不良のため11時45分飛しょうは中止となった。午後チーフ会議の結果明日24日は全員休みとし、飛しょうは25日に決まった。

12月24日：全員休み

12月25日：K-9L-2の飛しょう予定であったが強風のため実験は26日に延期になった。

12月26日：K-9L-2飛しょう。14時05分上下角81°、地上風北々西5m/s、気温4°C、気圧1010mb、天候くもり。

1962年3月実験

実験期間：3月22日～4月1日

実験場所：東京大学秋田実験場

実験ロケット：HT-150, L-735% エンジン(地上実験)

実験班の構成：

HT-150 実験主任 玉木・副主任 野村

所内38名(生研)、所外16名(プリンス自動車・明星電気・三菱電機・松下通信)ほかにアルバイト1名

L-735% 実験主任 糸川・副主任 秋葉

所内34名(生研)所外14名(プリンス自動車・松下通信・ユシヤ製作所)

3月22日：実験器材の開梱、点検

3月23日：L-735% 用計測器の調整

3月24日：11時L-735% エンジン実験場へ搬入、開梱して点検し、テストベンチにセットする。推力計の仮セット。11時警備打合せ(秋田)、13時記者会見(秋田)、15時道川協議会、L-735% エンジンの報道班見学があった。

3月25日：午前HT-150用ランチャの運搬および

角度付け練習、L-735% エンジンのゲージ貼り付け位置の決定。午後L-735% エンジン恒温室へ格納、LMテストスタンドの調整および修抜式の準備。

3月26日：午前LMテストスタンドの修抜式を行なう。13時HT-150全員打合せ、各班の準備状況および予定について打合せ。13時30分L-735% 全員打合せ、警備、リハーサル、報道関係等について打合わせ。14時細部についての打合せ会を行なう。

3月27日：9時HT-150のチーフ会議を行ない作業進行状況の確認、リハーサルについての打合せを行なう。午前HT-150の計器の衝撃試験。12時30分よりリハーサル開始14時15分終了。終了後チーフ会議を行ないタイムスケジュールについて検討を行なう。

3月29日：午前HT-150飛しょうの準備を行なったが、風が強く飛しょうは無理と思われたのでチーフ会議を開き検討の結果、天候回復の見込みがないので飛しょうは29日に延期することに決定した。

3月29日：HT-150飛しょう。11時34分上下角60°、地上風北西7m/s、気温6°C、気圧1021mb、天候晴。12時30分L-735% の打合せ会を行なう。午後エンジンをテストベンチへ運搬、エンジンに各ゲージの貼り付けを行なう。

3月30日：午前L-735% のリハーサル準備。13時リハーサル開始、16時30分終了。終了後タイムスケジュールの検討を行なう。

3月31日：L-735% エンジン地上実験。16時05分点火、気温11°C、気圧1022mb、天候晴。

1962年5月実験

実験期間：5月19日～5月25日

実験場所：東京大学秋田実験場

実験ロケット：K-8-10 (ID-10, AG-1)

実験班の構成：実験主任 野村・副主任 森

所内54名(生研・通研・電波研・東北大)所外24名(プリンス自動車・日本電気・明星電気・三菱電機・横河電機・測機舎・ユシヤ製作所)

5月19日：実験器材の開梱、点検、整理。

5月20日：夜間照明の設置作業、各班準備作業

5月21日：午前K-8-10ロケット実験場搬入。11時警備打合せ(秋田)、13時記者会見(秋田)、15時道川協議会。その他観測点の開設、ロケットの開梱等を行なう。

5月22日 午前開頭試験のための頭胴部組立。13時全員打合せ、各班の準備状況および作業予定について打合せを行なう。16時より開頭テスト、頭胴部の衝撃試験等を行なう。19時より夜間照明のオペレーションリハーサルを行なう。

5月23日：午前チーフ会議を行ないリハーサルのスケジュールの打合せ、天気予報の検討を行なう。午後テ

レモータと計器のかみ合せ試験. 17 時よりリハーサルを開始 20 時終了. 終了後タイムスケジュールの検討を行なう.

5 月 24 日: K-8-10 ロケット飛しょう. 19 時 50 分 上下角 81°.

5 月 25 日: K-8-10 ロケット実験結果の検討, 器材の撤収作業を行なう.

1962 年 8 月実験

実験期間: 8 月 14 日~8 月 23 日

実験場所: 東京大学鹿児島宇宙空間観測所

実験ロケット: AT-150, K-8L-1

実験班の構成: 実験主任 森・副主任 野村

所内 43 名 (生研), 所外 18 名 (プリンス自動車・帝國火工日本電気・明星電気・松下通信)

8 月 14 日: 10 時 30 分 鹿児島県協力会, 12 時 記者会見 (鹿児島) 夜半実験班員内の浦遊.

8 月 15 日: 10 時内の浦町協力会, 秋田実験場よりの器材到着. 各班荷物の開梱作業.

8 月 16 日: ランチャおよびレッカ高山着, 実験場へ搬入.

8 月 17 日: チーフ会議を行ない各班の作業の準備状況および実験期間中の注意事項の説明が行なわれた.

午後 6 時より 9 時まで町役場および漁業組合による歓迎会があった.

8 月 18 日: ロケット高山駅より実験場へ搬入. 10 時 15 分高山発, 15 時実験場搬入. 続いてロケットの梱包をとき点検を行なったが, 異状はなかった.

夕方, 実験班と内の浦町役場との親善野球試合を行なった.

8 月 19 日: 全員打合せ会を行なう. 各班の準備状況の報告, 保安についての説明等が行なわれた.

8 月 20 日: OT-75 および AT-150 のリハーサルを行なう.

8 月 21 日: OT-75 飛しょう. 10 時 00 分 上下角 60°, 午後は AT-150 の飛しょうを予定していたが天候不良のため 22 日に延期になった.

8 月 22 日: AT-150 飛しょう. 13 時 00 分 上下角 60°, 地上風南西 4 m/s, 気温 29°C, 天候晴. AT-150 飛しょう後 K-8L-1 のリハーサルを行なう.

8 月 23 日: K-8L-1 飛しょう. 16 時 15 分 上下角 80°, 地上風 0, 気温 30°C, 天候晴.

1962 年 10 月実験

実験期間: 10 月 22 日~10 月 29 日

実験場所: 東京大学生産技術研究所能代実験場

実験ロケット: L-735³/₆ エンジン (地上実験)

実験班の構成: 実験主任 秋葉・副主任 森

所内 36 名 (生研), 所外 20 名 (プリンス自動車・松下通信・新興通信)

10 月 22 日: 10 時記者会見 (秋田県庁), 15 時記者会見 (能代市役所) 実験班の第一班は正午能代実験場着, 実験器材の一部開梱. 第二班は道川の秋田実験場へ行き器材をジブで能代実験場へ運搬.

10 月 23 日: 実験器材の開梱 および点検, 計測室内の各班の配置の決定を行なう. 18 時 L-735³/₆ エンジン実験場に到着, 8 ton レッカーによって運搬車よりおろす. 日没のため投光機を点灯して梱包を開きエンジンの点検を行なったが異常なし.

10 月 24 日: 午前ロケットエンジンのテストベンチ据付け作業, 午後テストベンチの恒温装置作業を行なう.

10 月 25 日: 午前計測器の調整, 15 時全員打合せ. 各班の準備状況, リハーサルおよび保安等について打ち合わせる.

10 月 26 日: 午前通信連絡の配線作業. 午後リハーサルについて打合せのためチーフ会議を行なう. 報道班の見学があった.

10 月 27 日: 午前リハーサルを行なう. 13 時リハーサル終了. 終了後タイムスケジュールの検討を行なう.

10 月 28 日: 午前チーフ会議を行ない各班の準備状況, 保安対策について確認を行なった. 午後各計測班の最終調整を行なう.

10 月 29 日 L-735³/₆ エンジン地上実験. 14 時 15 分点火. 地上風北々西 0.4 m/s, 気圧 1012 mb, 気温 12.5 °C, 天候くもり.

1962 年 11 月実験

実験期間: 11 月 15 日~11 月 25 日

実験場所: 東京大学鹿児島宇宙空間観測所

実験ロケット: LT-150-1, SP-150-3, 4, K-9M-1 (ID-11)

実験班の構成:

LT-150, SP-150-3, 4 実験主任 玉木・副主任 斉藤
所内 40 名 (生研), 所外 11 名 (プリンス自動車・明星電気) ほかアルバイト学生 6 名

K-9M-1 実験主任 玉木・副主任 斉藤

所内 51 名 (生研・電波研) 所外 24 名 (プリンス自動車・日本電気・明星電気・横河電機・松下通信・ユシヤ製作所) ほかアルバイト学生 6 名

11 月 15 日: 10 時鹿児島県協力会, 11 時 20 分保安打合せ, 12 時記者会見いづれも県庁にて行なう.

11 月 16 日: 雨天のため屋外作業出来ず, 屋内の整理を行なう. 15 時内の浦協力会.

11 月 17 日: 実験器材の開梱点検, 通信系, 風速風向計, イグナイタ等の各リード線の敷設作業を行なう.

11 月 18 日: 14 時 LT-150-1, SP-150-3, 4 の全員打合せ. 各班の準備状況, 予定について, 明日のリハーサルについて打合せ. 主任より発射方向, 発射時刻についての説明が行なわれた. 打合せ会終了後消火器, 消火弾の実演テストを行なう. 17 時ロケット実験場に到

着。

11月19日午前 LT-150, SP-150 のリハーサルのための準備作業, 午後リハーサルを行なう。

11月20日: LT-150-1, SP-150-3 の飛しょう予定日であるが, 天候が悪いためチーフ会議を開いて検討した結果本日の飛しょう実験は中止と決定した。

11月21日: LT-150-1 飛しょう。11時09分 上下角 60°, 地上風北々東 3.5 m/s, 気温 18.5°C, 気圧 989 mb, 天候くもり。つづいて SP-150-3 飛しょう。15時12分上下角 60°, 地上風北東 2 m/s, 気温 18.5°C, 気圧 988 mb, 天候小雨。16時20分 K-9M-1 の全員打合せ。LT-150-1, SP-150-3 の飛しょう結果について主任より説明。つづいて各班の準備状況, 予定について報告, 打合せが行なわれた。

11月22日: 午前 K-9M-1 のリハーサルのための頭胴部組立, ロケット組立小屋の暖房装置の用意を行なう。11時よりリハーサルに入ったが途中で雨のため中断し天候待ちになったが天候が回復せずリハーサルは中止になった。午後, 今後の日程についてチーフ会議を行なう。16時30分開頭テストを行なう。46.8秒にて正常に開頭した。17時より計測器とテレメータのかみ合せテストを行なう。

11月23日: 午前, 昨日中断した K-9M-1 のリハーサルの再開, 12時30分リハーサル終了。本日は休日のため見学者が多かった。午後チーフ会議を行ない, 各班の準備状況についてチェック, 飛しょう日の発射時間について検討を行なった。

11月24日: 午前飛しょう用頭胴部組立。午後明日の K-9M-1 飛しょうスケジュールについて打合せを行なう。15時で本日の作業は終了し 15時30分より内の浦町役場と親善野球を行なう。

11月25日: K-9M-1 飛しょう。11時01分上下角 78°, 地上風北々西 2 m/sec, 気温 15.5°C, 気圧

995 mb, 天候くもり。午後つづいて SP-150-4 飛しょう。15時11分上下角 65°, 地上風 0, 気温 18.5°C, 気圧 991.5 mb, 天候うすくもり。

1962年12月実験

実験期間: 12月13日~12月20日

実験場所: 東京大学鹿兒島宇宙空間観測所

実験ロケット: K-8-11 (CR-6, GA-2, RN-1), SO-150-1

実験班の構成:

K-8-11 実験主任 齊藤・副主任 玉木

所内 52 名 (生研・理研・京大・東京天文台・東北大) 所外 22 名 (プリンス自動車・日本電気・明星電気・久保田気象測器・ユシヤ製作所) ほかにアルバイト学生 7 名

SO-150-1 実験主任 齊藤・副主任 玉木

所内 40 名 (生研) 所外 16 名 (プリンス自動車・日本電気・明星電気・松下通信) ほかにアルバイト学生 7 名

12月13日: 10時鹿兒島県協力会, 11時保安打合せ, 12時記者会見いずれも県庁にて行なう。

午前実験器材の開梱, 午後ロケット搬入のためのランチ地点の清掃, 16時15分 K-8-11, SO-150-1 ロケット実験場に搬入。ただちに組立小屋にて開梱, 点検を行なったが, 輸送中に異常はなかった模様である。

12月14日: 雨天のため屋外作業できず, 屋内の器材の整理, 午後昨日開梱したロケットの台車のせ作業を行なう。15時内の浦協力会を行なう。

12月15日: 午前 K-8-11 のランチ通し, 尾翼検査等を行なう。14時 K-8-11 の全員打合せ。各班の準備状況および予定の報告が行なわれ, 主任より発射時間の説明, 開頭テストについての検討等が行なわれた。16時よりテレメータと PI 各計測器のかみ合せテストが行なわれた。

12月16日: 11時15分より K-8-11 のリハーサルを行ない 15時10分終了。16時頭胴部の衝撃テスト, 17時タイマおよびプッシュの作動テストを行なう

第 1 表

型 号	観測 No.	飛しょう日	発射時間	重量(Kg)	全長(mm)	発射角度	高度(Km)	搭載計器
K-8-8	ID-7	36.10.24	12.59	1513	10485	81°	198	T, Y ₂ , T ₁ , TM, RT, ID
FN-150-1		36.10.26	11.45	66	3398	45°	4.1	RT
K-8-9	ID-8, AG-3	36.10.30	20.13	1540	10928	80°	175	AG, ID, T ₁ , TM, RT
RT-150-1		36.12.20	15.05	70	3036	48°	5.4	RT
K-9L-2	ID-9	36.12.26	14.05	1591	12774	81°	348	T, Y, ID, T ₁ , TM, RT
HT-150-1		37. 3.29	11.34	115	5176	60°	20	X ₁ , X ₂ , Y, T, TM
K-8-10	ID-10, GA-1	37. 5.24	19.50	1545	10937	81°	0	ID, GA, T ₁ , TM, RT
AT-150-1		37. 8.22	13.00	71	3016	60°	13	TM, RT
K-8L-1		37. 8.23	16.15	348	7309	80°	172	X ₁ , X ₂ , Y, T, σ, TM, RT
LT-150-1		37.11.21	11.09	70	3473	60°	5	
SP-150-3		37.11.21	15.12	68	3472	60°	6	RT
K-9M-1	ID-11	37.11.25	11.01	1439	11177	78°	56	X ₁ , X ₂ , Y ₁ , Y ₂ , T, σ, T ₁ , ID, TM, RT
SP-150-4		37.11.25	15.11	70	3473	65°	10	RT
K-8-11	CR-6	37.12.18	14.03	1499	10930	79°	202	GA, RN, CR, T ₁ , TM, RT
SO-150-1	GA-2, RN-1	37.12.20	12.11	88	3541	70°	12	ED, ET, TM

記号説明 X₁: 加速度計, X₂: 減速度計, Y₁, Y₂: 横加速度計, T: 温度計, σ: 歪計, T₁: タイマ, ID: 電離層観測器, AG: 夜光高層観測器, GA: 地磁気によるロケット姿勢計, RN: 電波雑音観測器, CR: 宇宙線観測器, ED: 異常検出装置, ET: 電子式タイマ, TM: テレメータ送信機, RT: レーダトランスポンダ

た。
12月17日：午前飛しょう用K-8-11の頭胴部組立。午後内の浦町役場と親善野球試合を行なった。

12月18日：K-8-11飛しょう。14時03分上下角79°、地上風西1m/s、気温13°C、気圧988.5mb、天候はれ。15時45分SO-150-1の金員打合せ。各班の準備状況および予定について報告。リハーサルについて打合せが行なわれた。16時チーフ会議を開き作業の詳細について打合せを行なった。

12月19日：SO-150-1のリハーサル。途中テレメータ送信機の調子が悪く中断し17時30分日没のためリハーサルは途中までで取り止めることになった。

12月20日：SO-150-1飛しょう。12時11分上下

角70°、地上風北東4m/s、気温13°C、気圧990mb、天候くもり。

以上で飛しょう実験および地上実験の記録は終わるが実験結果についてはそれぞれ実験主任が本誌に執筆しているのでここでは省略する。第1表に飛しょうしたロケットのデータを示す。

詳細にわたる飛しょうデータおよび関連資料は系川研究室SEデータセンターに保存されている。またSE記録班では飛しょう実験および地上実験に関する16ミリ記録映画を作成し、現在までに作成された約80巻がSEデータセンターに保管されている。

(1963年4月16日受理)

筆 者 紹 介

- ◇糸川 英夫 教授 工博 専攻 システム工学
- ◇高木 夫昇 教授 工博 専攻 通信機器学
- ◇前田 憲一 京都大学教授 工博 専攻 電子工学
- ◇畑中 武夫 教授(理学部) 理博 専攻 天体物理学
- ◇玉木 武成 教授 工博 専攻 気体力学・熱学
- ◇斎藤 康成 教授 工博 専攻 応用電子工学
- ◇野村 民也 教授 工博 専攻 電気制御学
- ◇森 大吉 助教授 工博 専攻 材料力学・機械振動学
- ◇三石 智 技官 専攻 気体力学・熱学
- ◇秋葉 謙二郎 助教授 工博 専攻 システム工学
- ◇広沢 夫 技官 専攻 同上
- ◇北坂 秋秀 技官 同上
- ◇中山 野山 助手 専攻 ロケット工学
- ◇吉安 藤夫 科学技術庁(元技官) 専攻 同上
- ◇大井 良光 教授 工博 専攻 溶接工学
- ◇小井 光四郎 教授 工博 専攻 材料力学
- ◇時倉 達 技官 専攻 同上
- ◇渡辺 征勝 プリンズ自動車工業KK
- ◇岡本 通克 教授 理博 専攻 応用数学
- ◇大井 井彦 技官 専攻 同上
- ◇福井 克真 日本電気KK通信技術研究所
- ◇梶谷 光一 同上
- ◇高橋 健一 同上
- ◇鳥下 知雄 同上
- ◇山崎 不二雄 同上
- ◇箱崎 洋右 同上
- ◇横山 幸次 助手 専攻 応用電子工学
- ◇横山 茂三郎 技官 専攻 電気制御学
- ◇井上 浩三 技官 専攻 同上
- ◇片山 由紀夫 同上 専攻 同上
- ◇山本 伸俊 日本電気KK
- ◇榎本 三郎 三菱電機KK
- ◇渡辺 川一 同上
- ◇市川 満 技官 専攻 通信機器学
- ◇関口 豊 技官 専攻 同上
- ◇長谷部 望 助手 専攻 同上
- ◇黒川 兼周 助教授 工博 専攻 応用電子工学
- ◇倉尾 要道 助手 専攻 応用電子工学
- ◇中村 色生 松下通信工業KK
- ◇中村 日紀 研究しよく託 専攻 計測工学
- ◇林 紀生 技官 専攻 システム工学
- ◇今和 茂夫 技官 専攻 材料力学・機械振動学
- ◇和波 井身 松下通信工業KK
- ◇坂井 博 技官 専攻 システム工学
- ◇熊谷 博 技官 専攻 システム工学
- ◇松島 宗 技官 専攻 システム工学
- ◇板橋 宗 技官 専攻 システム工学

- ◇中村 巖 プリンス自動車工業KK
- ◇植村 恒義 助教授 工博 専攻 精密機器学
- ◇田中 恒勝 技官 専攻 同上
- ◇金沢 和夫 技官 専攻 同上
- ◇喜久里 夫豊 技官 専攻 同上
- ◇岡宮 誠一 技官(写真掛)
- ◇黒河 元昭 元技官 専攻 精密機器学
- ◇伊藤 寛治 助手 専攻 同上
- ◇山本 芳孝 技官 専攻 同上
- ◇北原 隆和 技官 専攻 同上
- ◇丸安 隆和 技官 専攻 同上
- ◇中村 英夫 技官 専攻 同上
- ◇平 尾邦 助手 専攻 同上
- ◇宮崎 友雄 郵政省電波研究所 理博 専攻 地球物理学
- ◇竹内 一 理化学研究所 理博 専攻 物理学
- ◇今井 一番 同上
- ◇吉沢 忠良 同上
- ◇大塚 好造 同上
- ◇大塚 幸夫 久保田気象測器KK古河研究所
- ◇加藤 愛 同上
- ◇青山 雄 東北大学教授 理博 専攻 地球物理学
- ◇清水 水 東北大学助手
- ◇飯塚 義正 KK測機舎
- ◇古畑 正秋 同上
- ◇中村 正年 教授(東京天文台)理博 専攻 天文学
- ◇中村 純二 東京教育大学光学研究所 助教授 理博 専攻 物理学
- ◇中村 純二 技官(東京天文台) 専攻 数学
- ◇竹屋 芳夫 助教授(数養学部)理博 専攻 物理学
- ◇松本 治 大阪市立大学 教授 工博 専攻 電気工学
- ◇奥本 隆 京都大学
- ◇大塚 昭寛 大阪市立大学
- ◇建部 涉 京都大学
- ◇木村 啓 大阪市立大学
- ◇高倉 豊 京都大学助教授 工博 電子工学
- ◇土手 達彦 助教授(東京天文台)理博 専攻 天文学
- ◇一宮 虎雄 理化学研究所(元電々公社電気通信研究所)工博 専攻 放電物理学・プラズマ物理学
- ◇下村 龍彦 同上 理博 専攻 物理学
- ◇渡辺 龍彦 本所事務官・事務長補佐
- ◇池田 勇 同上・観測ロケット掛長
- ◇津田 昌明 助教授 工博 専攻 建築配置・機能学
- ◇高田 昌明 技官 専攻 測量学・土木構造学
- ◇山田 隆夫 助手 専攻 電気制御工学
- ◇佐伯 信 技官 専攻 システム工学
- ◇安田 良平 技官 専攻 同上
- ◇安田 良平 本所技官・写真掛長